

# 学校のテスト 在宅で解答・採点

## DNP、結果をAIで分析

大日本印刷（DNP）は教員が作成したテストを生徒が自宅で解答でき、テスト結果の分析・評価も可能な小中学校向けの学習システムを開発した。新型コロナウイルスの影響で学校の授業を在宅で履修する必要が一段と高まる中、全国各地にある学校のほか、地方自治体に売り込む。2021年度には1000校への納入を目指す。

DNPが開発したのは「評価分析機能付きテストシステム」。すでに提供している学習支援システム「リアテンドラント」に新機能を搭載し、タブレット端末でテストを自宅に居ながら受験できるほか、テスト結果を人工知能（AI）で分析するのが特徴だ。

具体的には教員がパソコンでテスト問題を作成。生徒はタブレット端末上でタッチペンを使い、テストの問題に答える。選択式のほか、記述による解答も可能。従来の遠隔学習は教材やドリルの活用に

とどまっていたため、成績表に反映する定期テストの実施は難しかったという。

採点はオンライン上で処理することで効率化し、教員の負担軽減につなげる。生徒が解答した答案を集計し、設問ごとに解答を一覧で表示。教員は1枚ずつ答案用紙をチェックする必要がなく、設問ごとに全生徒の答案を採点できる。実証実験では、中学校の定期試験で1教科当たりの採点時間を約6割短縮できたとしている。

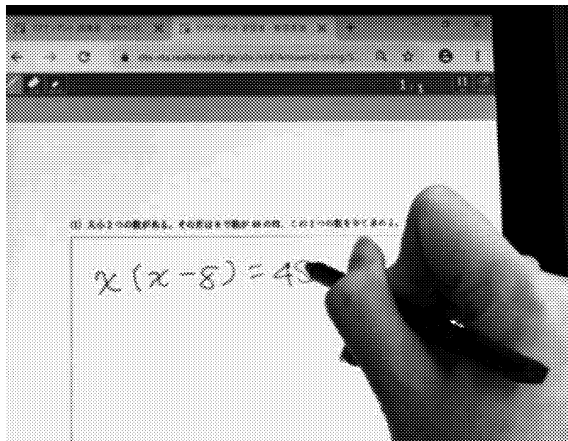
採点結果の分析にはAIを活用。事前に教員がテストの各設問に単元のひも付けを設定する。テストの正誤から、生徒の理解が進んでいない単元を割り出す。これにより生徒一人ひとりの習熟度を解析でき、復習が必要な学習分野を特定できるという。

文部科学省はICT（情報通信技術）を活用した教育の推進を目指す「GIGAスクール構想」で、生徒1人につ

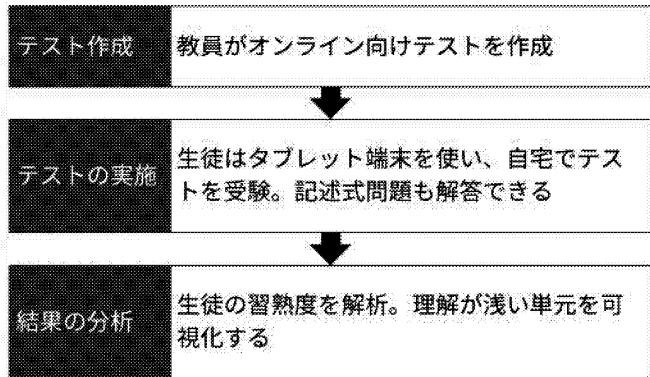
き1台の端末を配布し、学校内の通信ネットワークを整備する目標を掲げる。新型コロナウイルスの影響を受け、自宅での学習時間が増えるなか、リモートでの学習環境の整備は急務となっている。教育関連サービスを手がける企業はオンライン教材や学習向けタブレット端末の拡充に動いている。

こうした状況に対応し、DNPは学校での定期テストをオンライン上で実施できるなど教育現場が使いやすい機能を追加することで、今回開発したテストシステムを拡販する狙いだ。

タブレット端末を提供する企業とも組み、今回開発したテストシステムやリアテンドラントの販促も拡大。日本マイクロソフトと協業し、同社のタブレット端末にテストシステムを含むリアテンドラントをオプションとして提供。システム開発のスカイ（大阪市）の端末にもリアテンドラントを搭載する。（平岡大輝）



評価分析機能付きテストシステムの流れ



DNPの学習支援システムは、タブレット端末に書き込むことで記述式の問題に対応できる